

やめてみる

2025. 8. 22

夏休み中も文章は書いていた。だが、「園長通信」は書かなかった。夏休みとはいえ、預かり保育に子どもたちが来てくれる。そのため、ブログに子どもたちの写真をアップしていた。その作業時に、アクセス数の数字が目に入る。休みというのに、意外とアクセス数が多い。日に日に心が痛んできた。申し訳ない気持ちになってきた。もしや「園長通信」がアップされることを期待してくださる方がいるのではないかな。

「園長通信」をやめてみるとある変化が起きた。今までは、ふとしたときに文章が浮かんできた。急いで、スマホにメモをしていた。それが、なくなった。おかげで、リラックスしたいときにできるようになった。楽になった。今までは、日々の原稿が心配で無意識のうちに文章が浮かんできてしまったのかもしれない。

やめてみたのには、理由があった。インプット、充電のためである。一番の充電は、旅に出ることである。旅に出るには、夏休みがよい。ところが、さほどの充電とはならなかった。以前よりもインプット力が落ちているのか。

本日より、2学期がスタートする。「園長通信」も再開となる。今までと変わらず、つれづれなるままに、日々、パソコンに向かい、考えたこと、考えたいこと、伝えたいことなどを書いていくつもりである。気分は、兼好法師、吉田兼好である。

約1か月もの間、「園長通信」とは違う文章を書いてきた。それはそれで自分のためになる。中には、こういった文章を書いてくださいといったオーダーもあった。好きなように自由に思いつくままに書くことには慣れている。もう7年も、そうして書いている。

だが、内容を指定されての文章という、機会はそう多くはない。例えば、このような依頼が届いた。「保護者やお子さん向けに、夏休み明けでも元気に学校に行けるような学校生活が楽しくなるような寄稿をぜひいただけないでしょうか」

これを見たときに、正直、自分に書けるのだろうかという不安が襲ってきた。いつもならば、おおよその構想を練ってから書き始める。今回は、とりあえずパソコンに向かってみた。すると、あっという間に原稿が出来上がった。自分にも書けた。

何でもそうだが、時間をかけたからといっていいものができるとは限らない。今回も、そのことを学んだ。物事はタイミングである。その後、何度かの修正を経て、依頼された原稿は仕上がった。そして、先日、8月19日（火）無事に世に出た。

自分のことを勝手にエッセイストなどと言っていると、少しずつそうなっていくから不思議である。もちろん、そうなる土台として「園長通信」があることは自覚している。これからも、多くの人に読んでもらえる文章を書いていこうと思う。